



私の活動体験記

岩手大学ボランティアサークル
「天気輪の柱」で活動する

坂本龍 さん
宇部陽子 さん

第1回

このコーナーでは、NPO・ボランティア活動に参加した方々のお話しを紹介します。今回は、岩手大学の災害支援ボランティア団体で活動しているお2人にお話しを伺いました。



泥出し作業

「天気輪の柱」は、岩手大学大学院1年の萩原亜弥香さんがメンバーを集め、震災から1週間目に立ち上げたボランティアサークルである。「天気輪の柱」は、宮澤賢治の童話「銀河鉄道の夜」の中で、人の幸福について考え出す重要なキーワードとして出てくるものであり、「東北沿岸部は辛く大変な状態が続いているが、ここ『天気輪の柱』から、明るい目的地に再び進んでいければ。」という思いから付けられた。

をしたあとに、ボランティアさんに手作業でお願いしたいというニーズもありません。実際に街を歩いてみるとまだまだだなどという場所もありますが、その地域の人

坂本さん

「ボランティア活動をしたいという思いは、もともと自分の中にもありました。そんな時、友人からボランティア募集のメールが転送されてきたので、この活動を知って、参加することにしました。3月11日の夜、停電で真っ暗な中、ラジオでニュースを聞きながら、何もできなかった自分がふがいないかと思えて、自分に何かできることはないのかなと思ったのが参加のきっかけでした。

ニーズ調査をしたり、側溝の泥をとったりと様々な活動をしたんですけど、一番印象に残っているのは『思い出探し隊』の活動です。個人の家の近くに行くと、津波に流された写真など思い出に残る物、大切な物をガレキの中から探して分別しました。そこで預金通帳を見つけて、家のおばあさんからすごく感謝されたのを覚えています。

活動して思ったのは、とにかく復興には長い時間がかかる。5年10年では完全復興はできないんだろうなということでした。津波の被害というのは大きく、途方もない感覚に襲われたというのが一番大きな印象でした。

今後は、大阪の会社に就職が決まっています。東北での就職も考えたんですけど、自分としては遠くで働いても、逆に岩手の、東北のためにできることがあるのではないかと考えています。就職活動も地震のさなかにしたけれど、このことが自分の進路に影響を与えたと感じています。建設環境工学科なので、将来、災害復興に関わることも考えられます。今回のボランティアの体験は、これからの

たちがボランティアセンターに依頼してきたときの応援体制は整えているつもりです。「このような活動が必要ではないか。」と推測できることもありますが、実際に活動するときは、ニーズを聞いて

側溝清掃



仕事に役に立つと思います。岩手にいるのはあと半年しかないの、積極的に被災地に行って、学生にしかできない、若い力を使った活動を通して被災地のためになればと思っています。

ボランティアについては、一般の学生の参加が少ないので、活動をしている自分たちとの温度差を感じます。これだけの災害が起きたのに、ボランティア活動に参加するのはこれだけの人数なのかなと。そういうのも仕方ないのかなとも思います。ボランティアに消極的な学生を巻き込んでいくのも自分たちの仕事かなと思っています。」

宇部さん

「震災のあと、何もできない状態が続きました。電気が復旧してからも、テレビから流れてくる被害の情報を見るだけで、自分では何もできないまま時間が経っていききました。自分に何かできないかと思っていたときに、こういうボランティアをやっている団体があることを

からの対応という形にならざるを得ません。自分達の考えているニーズと地域のニーズが必ずしも同じではないので、そのあたりに苦労があります。」と佐々木さんは語る。

知って、参加してみようと思いました。盛岡YMCA宮古ボランティアセンターで災害ボランティアに取り組んだのですが、まず、各家庭を徒歩でまわり、宮古で被災した方々がどういう事を望んでいるのかを聞くところから始めました。お年寄りが多いので、道路や家の泥の除去と清掃などの一人ではできない作業のお手伝いをしたりしました。次第に、地域の方々が要望を出してくれるようになりました。地域の方に声をかけられて、お花見をしたり、タコ焼きを焼いて食べていただいたりもしました。岩手大学の学生ということでも被災地の方に親近感を持ってもらえたので、今まで岩手大学の学生として県民の皆さんにお世話になってきた分、恩返しじゃないですけど、できる限り被災地に行って活動は続けていきたいと思っています。ボランティアが必要とされる状況はまだ長く続きそうですし。

復興には、かなり時間がかかるだろうということも感じますし、大変だなと思います。一方で、被災した方々が少しずつ元氣を取り戻していく姿が見られましたし、ボランティアに行くたびに少しずつ地域の人が変わっていくのが分かります。長い時間はかかるだろうけど、着実に前に進んでいる実感はあります。」

「天気輪の柱」の活動場所

岩手大学中央学生食堂2階

(岩手大学学生ボランティア団体協議会内)

連絡先・電話019-6221-6630

E-mail: ygakusei@iwate-u.ac.jp